

研究課題

小・中学校の継続性・系統性ある教育活動の推進

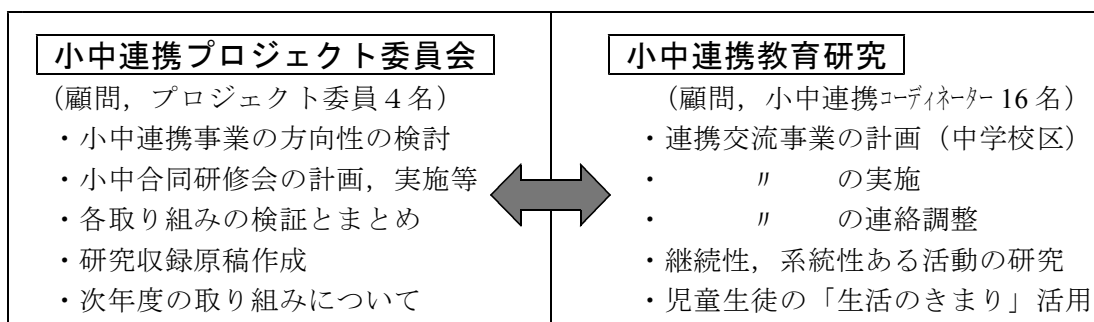
1 基本方針と研究推進の方向性

1 ねらい

- (1) 小中学校の指導法の継続性、学習内容の系統性のある教育活動を推進し、教育活動全般における教育効果を高める。
- (2) 小中学生の異年齢交流により、児童生徒の社会性や感性を育む。
- (3) 小中学校の教員が、それぞれ異校種における教科指導や生活指導等を経験し情報交換することにより、発達段階に応じた教育内容や指導方法の工夫ができるようにする。

2 研究内容

- (1) 小中連携コーディネーターを中心に、交流授業、教員1日交流、小中合同研修会を企画実施し、自校の教育に生かす。
 - ① 小中それぞれの教育観、教育活動を知る。
 - ② 教科内容の系統性を確認する。
 - ③ 互いの指導法の良さを知る。
- (2) 教員の積極的な交流を図り、生活面における児童生徒の適切な指導について共通理解を図る。
 - ① 児童・生徒指導の継続性について、情報交換する。
 - ② 個人情報の有効活用によって、個に応じたきめ細かな支援を円滑に接続する。
- (3) 異年齢の子どもがふれあうことにより、社会性など様々な感性を育む。
 - ① 児童・生徒が環境の変化に対応できるよう、柔軟な心づくりに努める。
 - ② 小学生が安心して中学校へ進学できるよう、早期より中学校の教育活動内容に慣れるよう工夫する。
 - ③ 小中合同で活動する授業を取り入れ、思いやりやあこがれの気持ちを育て、子どもの主体的な活動の活性化を図る。



児童生徒のよりよい成長のために

教職員間の連携強化	児童生徒の交流
<p>☆小中学校の教師が連帯感を持ち、小中学生を育てようという意識を持つために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の交流① (1日交流：中学校区における交流) ○教職員の交流② (小中合同研修会) ○研究授業等の公開 (参観交流：学区問わず) ○「生活のきまり」の活用 →9年間の段階に応じた、継続的指導 	<p>☆小学生にとっては中学校への不安感をなくしスムーズなつながりができるように、中学生にとっては、自己有用感を持たせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合唱等の発表会 ○6年生への中学校案内 ○出身小学校での合同清掃・美化活動 ○合同あいさつ運動 ○中学校体育祭・文化祭等への小学生の招待 ○部活動体験 ○小中合同授業・体験授業